

新聞圖會 第十号

○ネヨリ

この世話とて男が替禮と早トして居ると云ふは、
由実のめつて居ると云ふと、
エ、悔しや仲人さまはさきとて身とけし
くらとて、
つめて身と投とぞ、
世の人媒約口へ、
言、ぬりのあり、
ふと、

日越中橋

我ら婦人あり夜半

と誰有て知る者あり

三丁も流しは打たれ

米もふ廣嶋舟が是と

助けろりく介抱して所と

なつね人々走らせ親元へ半渡せ

とぞ此娘が身と投つ元ふ南新

町の料理屋の親子ともい物堅き

生質にて家業に似合せりきたる事

は、評判の堅氣ある雑喉場へんの者が

具堅の氣又眼がつて仲人とのしは媒約の

娘とて、
承知せしむるのむと夫婦とてと聞て娘も

有て近所の或る家へ行つ小奥の間

よか雑喉場男が連の男とて

いそいで、
豆間にも、
つへ金く偽あり私とて、

娘の何と云ふ、
料理屋の娘の堅いと
抱締とて、

新聞
紙上
詳あり



八尾善枝

世の人の